

平成29年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

9

福岡県立小倉南高等学校長

(No.1)

学校運営計画				評価			
学校運営方針		志を持って意欲的に学び、確かな学力、健やかにして豊かな情操を身に付けた人間の育成に努め、生徒一人一人の自己実現を目指し、社会の変化に対応して社会を支え、国際社会で活躍できる人材を育成する。					
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標				
部課長制の新たな運営組織のもと、系統的・組織的な校務運営を図ることで、統一的で実効性と継続性を持つ教育活動を展開することができつつある。 本年度は、使命感、倫理観を持った教職員の協働体制のもと、○更なる教師力向上(教科指導力、生徒指導力)による進学校として信頼される学校づくり、○共通理解、共通実践を基盤とした部課長制による更なる系統的、組織的な校務運営、○教育活動に対する迅速・的確な検証・分析及び改善を行うことを課題とする。		教育方針 「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」	凡事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)	A			
		「自主」「創造」「親愛」の校訓のもと文武両道の伝統を継承し、学習活動、部活動、特別活動等に意欲的、主体的、協働的に取り組む生徒の育成に努めるとともに、社会の変化に的確に対応した学校改革を積極的に進め、生徒に高い進路希望を持たせ、確実に目標実現させるための教育活動を学校全体として計画的に行う。また、人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を根幹とした教育に取り組む。	人権尊重の精神の涵養(いじめ、暴力、差別等の撲滅)				
			「授業で勝負する」の理念のもと常に日々の授業を分析検証し、改善に向けて努力し、学習意欲の向上を図る。(センター試験出題の知識レベル活用力育成、二次力育成)				
			「サザンクロスプラン」を軸とした南高PRIDEを確かなものとする「スタンダード」の確立				
			特別活動(生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動)、部活動や海外短期留学、ボランティア活動等とおした逞しい人間力育成				
			関係機関(地域、大学等教育機関)との連携によるDAL(Deep Active Learning)				
			部課長制の利点を生かし各分掌や委員会業務の充実を図るとともに、学校全体の課題に対する協働体制づくり				
			本校の教育実践の広報活動に努め、学校全体で本校の教育に共感を抱く保護者、生徒の拡大を図るとともに、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得				
	教育公務員としての高い倫理観と服務規律を遵守する姿勢の徹底						
	I C T機器活用、アクティブラーニングの視点による授業改善、観点別評価研究						
部分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	
教務	学 務	・自宅学習時間(1日平均) 1年:120分 2年:140分 3年:160分	・教科指導の充実と学力の向上を目指す。	1・2学年特別進学クラスを編成し、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。 進路部と連携し、2学年及び3学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。	A	A	・引き続き「授業を大事にし、授業で力をつける」ために、緊張感のある授業を展開する。 ・従来の講義調の一方向授業から、アクティブラーニングなどの双方向授業へと転換を図り、志ある主体的学習態度の育成に力を注ぐ。 ・新学習指導要領、大学入試共通テストに対する理解を深め、対応できる授業を構築する。 ・面談やライフレポートの効果的活用などにより、生徒の生活状況を把握し、心情を理解してきめ細やかな学習指導を行う。
			・授業規律の確立に努める。	生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。 授業を生徒指導の最適の場と捉え、緊張感のある授業を展開する。	A		
	課	・出席率 1年:99.5% 2年:99.0% 3年:99.0% 全体:99.2%	・出席率の向上に努める。	学習・生活指導の充実を図るために、ライフレポートの効果的活用に努める。 出席統計と学習時間の統計を毎月提示し、効果的活用に努める。	B		
					A		
部	企 画 ・ 広 報	・校内の円滑な行事運営に努める。	・各部、各課と連携し、校内の円滑な行事、儀式等の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案や各部との調整を図る。 二ヶ月分の行事予定表(細目)を各月の月上旬までに配付し、各行事の周知徹底を図る。	B	B	・行事や儀式等が円滑に実施できるよう早期に各部、各課と連携し、調整を行う。 ・保護者講演会やPTA総会などPTA活動において参加者の増加を目指し、PTA総会の日程や講演会について協議、検討を行う。 ・2ヶ月分ごとの行事予定の早期配布に努め、各行事の周知徹底を図る。
			・PTA活動の活性化を図る。	・PTA活動を推進し、学校と家庭との相互理解を深める。	PTAとの連携を強化し、学校と家庭との相互理解を図るとともに、適切な運営とPTA活動の活性化に努める。 学校要覧、学校案内等の内容の充実や学校ホームページの更新を随時行い、より効果的な広報活動を推進する。		
	課				B		

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
生徒	指導課	1. 基本的生活習慣標 ア 課外出席率 <u>98.0%</u> イ 授業出席率 <u>99.2%</u> 2. PTA合同「挨拶運動」 各学期毎3日間実施 3. 部活動目標 ア 加入率 <u>8.6%</u> イ 県大会 運動部 1.5 文化部 4 ウ 九州 5 エ 全国 4(以上延べ)	・基本的生活習慣の確立 校則・マナーの遵守  ・愛校心、帰属意識を高める	社会規範・校則遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。	A	A	・いじめの定義の改正に伴い、細かいことから生徒を見つめていき、早期発見に努める。  ・委員会活動を活性化させ、生徒自ら主体的に学校行事等に参加するように取り組む。  ・部活動集会等を定期的に行い、部と部の連携や活動が活発になるように切磋琢磨していく。  ・生徒会活動がスムーズに行なえるように人材の確保に努め、育成する。
				「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図り、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。	A		
				生活指導の徹底を図り、校則違反や特別指導の減少に努める。	A		
				職員、生徒、保護者が一体となって「挨拶運動」の取組を推進する。	B		
				学校行事のより一層の内容の充実に努めるとともに、学校行事を通じて本校に対する帰属意識を育成する。	B		
				挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会執行部及び部活動所属生徒の果たすべき役割を明確にし、活動の活性化を図る。	B		
部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。	B						
部	保健課	・生徒及び職員の心身の健康維持増進。  ・委員会活動の活性化。  ・生徒情報の把握と円滑な生徒支援。	・保健室利用者数の把握  ・保健日より定期的発行  ・事務室と連携し校内施設の安全管理に努める。 ・美化意識の高揚に努める。ゴミ処理、減量の改善立案。施設の安全改修に努める。  ・教育相談活動を積極的に進める。生徒支援活動をより拡張して推進する。	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医との連携をとる。	B	A	・生徒の安全のために、施設の点検やさらなる充実を目指す。  ・清掃活動に関し、美化委員会を中心に美化点検や意識を高めるための啓発活動を行う。また生徒に各掃除区域の掃除要領を確認させ、清掃の徹底を図る。  ・生徒の多様性に対して情報の共有や支援活動および指導方法の共通理解にしっかり取り組む。
				保健日より毎月1回発行。生徒委員会活動を活性化させる。	A		
				美化、保健委員会活動を活性化させる。	B		
				掃除監督の徹底を図り、生徒の美化意識の高揚に努める。	B		
				毎日の清掃を徹底させ、美化意識の高揚を図る。掃除監督の徹底。清掃に関わる経費の削減、ゴミの減量化を目指す。	B		
				生徒支援に関わる情報を学年会議、職員会議、生徒特別支援チーム等を通して情報を共有、協議し、より良い生徒支援につなげる。	A		
保護者、専門機関との連携を推進し、生徒支援を充実させる。	A						
進路	キャリア教育課	・一学年(1月進研)総合3教科 50以上120名以上 ・二学年(1月進研)総合3教科 50以上100名以上  ・三学年(進学結果)国公立大90人以上 (AO・推薦50人以上) (一般入試40人以上) センター受験率 80% (二次受験 65%) 四年制大進学率 70%	・教科指導体制の確立 進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践  ・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導を実践し、四年制大学進学率70%の達成  ・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の確立	センター試験まで軸足を学校に置いた理系5教科7科目、文系6教科7科目・3教科4科目による教科指導を継続する。	A	A	・多数の生徒がセンター試験まで理系5教科、文系6教科を学習し、2次出願の際の選択肢を幅広く持つことが出来た。  ・長期休業中課外の内容、日程について検討していく必要がある。合わせて、進路行事の精選についても検討していく。  ・生徒や保護者向けの進路説明会を通して、入試制度の変化や進路実現にむけての取り組みについてより一層の理解を図り、意識の高揚と学習意欲の向上を図る。
				外部模試・実力考査の成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。	A		
				長期休業中の課外及び土曜講座の年間実施日数は長期休業中課外(20日～25日間)、土曜講座(月2回程度)を確保する。	A		
				夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。	B		
				課外、土曜講座の出欠統計の上位クラスを毎月5日までに掲示し、出席率の向上を図る。	B		
				大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を1学年5回、2学年3回、3学年3回を実施する。	B		
2・3学年保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	A						
部	情報課	・ホームページ更新 ・職員研修  ・情報機器の点検  ・図書館の活性化	・ホームページを月1回以上の頻度で更新する。 ・年間2回以上の情報研修会を実施する。 ・学期に1度は情報機器の点検を実施する。  ・年間読書数 5,500冊	ホームページの更新を月に1回は行い、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活発化する。	A	A	・ホームページの更新については、行事が終わるとすぐにアップロードすることができた。  ・今年度、2台目の電子黒板が導入され、ICT機器の利用も増えつつある。  ・クラス数減に伴い、貸出冊数が減少している。学校の実態に合わせて、目標冊数を設定する。
				職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。	A		
				情報機器の点検を学期に1回は実施し、管理を徹底する。また、ICT環境のより一層の充実に努める。	B		
				読書数増加に向けて具体策を講じ、数値目標の達成に努める。	B		

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	次年度のおもな課題						
進路部	支援課	・支援が特に必要な生徒の修学保障と進路保障を図る。 ・就学・就労保障のための支援体制の構築を図る。 ・支援金、奨学金等の案内を通じて、生徒の進路の支援につなげる。	・校外での支援の連携を効果的に図る。必要に応じた家庭訪問の実施 ・高同推の進路担当者会の参加により生徒に還元できる情報収集 ・経済的支援制度の家庭の実情に応じた活用	生徒の修学困難な理由を早期に把握、分析してその課題解決のための手段を講じる。経済的・個別的な教育課題を抱えた生徒等の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。 就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。また高進協、進保協、職安との連携を通じて適正な選考が行われるように 就学・就労支援に取り組む。 日本学生支援機構をはじめとした奨学金の情報を伝え、進路保障のため保護者・生徒が活用しやすいよう理解を深めるための対応を行う。また支援金や給付金について事務室と連携して取り組み、生徒一人一人の教育環境等の把握に努め、支援につなげる。	A	A	A	・日頃より問題を抱えている生徒や配慮の必要な生徒については家庭との連携で効果的な支援を心がけ、中学校、地域との情報交換をすることによりよりよい修学保障・進路保障に努める。校内においては関係部署と連携を深め、早目の対応ができるようにしておく。 ・就職・公務員希望者には個に応じた細やかな進路保障を行う。 ・様々な奨学金制度の紹介をする。経済的に厳しい家庭の把握をし、給付型奨学金の活用を薦め、家庭のニーズに応じた支援の工夫をする。			
	研修部	研修による指導力の向上	・校内・外研修体制の充実を図り、職員研修の推進により教育活動の活性化に取り組む。 ・全職員参加の授業研修を実施し、授業改善に努め、教科指導の充実を目指す。	転任者研修会及び職員研修会を各分掌と調整し実施する。	B				B	A	・公開授業は、中学校教師、保護者を含め 100名を越える参加者があり、本校の取り組みを知らせる貴重な機会となり大変好評であった。次年度も9月実施を考え、広報活動についても中学校及び中学校保護者へのわかりやすい案内を工夫していきたい。 ・授業改善については授業力向上の核となる組織作りを検討し、段階的に進行していきたい。 ・次年度は「新テスト」や「観点別評価の作成」について進路部、教務部と連携し、早い段階で研修を組み込み、今後の入試改革に向けて共通認識をもち、対応できる研修を実施したい。 ・研究紀要については、英語コースの閉コース式など年度の特徴となる行事の記録を欠かさず行い、今後も本校の軌跡がわかる紀要作りを目標としていく。
				初任者研修、2年経過研修、5年経過研修など経年研修を実施する。	A						
運営委員研修会を年間2回実施し、各部・課間の運営調整を行う。				B							
センター研修、公開授業等の案内を行い、職員の積極的参加を促す。				B							
学部	1年	・出席率 授業出席率 99.5% 課外出席率 98.5% ・家庭学習時間 1日平均120分 ・1月進研模試 英国数偏差値 50以上の生徒 120人以上	・基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事（自立と協働を学ぶ体験活動）を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。	A	B	A	・授業の開始・終了時の挨拶にクラス間の差が大きい。廊下等での挨拶は学年の教員には概ねよいが、まだまだのところがあり、「心を育てる」教育を心がけながら改善を目指す。 ・小テストの復習が不十分な生徒が少なくない。一方で課題の提出状況は概ね良好であり、再テスト等に真摯に臨むことで基礎学力をつけており、下位層の底上げができています。上位層の育成が課題である。 ・classi の活用が不十分である。進路・教科を中心に情報提供し、活用を促す。			
			・授業規律の確立と基礎学力の定着	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。 ICT機器活用、アクティブラーニング授業等を実施し、「分かる授業」を展開する。	A						
			・将来を見据えた進路目標の設定・進路選択	進路指導部と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。	B						
学部	2年	・出席率 授業出席率 % 課外出席率 % ・家庭学習時間 1日平均 分 ・1月進研模試 英国数偏差値 50以上の生徒 人	・基本的生活習慣の確立	時間厳守、出席率向上に取り組み、基本的生活習慣や規範意識を身につけ、凡事を徹底させる。	B	B	B	・南高プライドを胸に卒業できるよう、年間を通じて丁寧で粘り強い指導を継続して行う。 ・掲げた目標は概ね達成できたものの、生徒個人の目標達成度合いには大きな差がある。次年度に向けて2学年の残された時間で南高スタンダードをベースに細やかな指導を継続する。 ・最高学年として1学期の学校行事では、リーダーとして責任を果たせるよう学年末考査終了後から事前の準備を進め、生徒の意識を高める。 ・早い段階で生徒の適切な進路目標を明確にさせるため検討会や研修会等進路部と連携する。 ・問題を見逃さず、人権意識の高揚に努める。			
			・授業規律の確立と基礎学力の充実	授業、学校行事等で、自ら課題を発見し、克服していく経験を積ませる場面を設定し、課題解決力を身につけさせる。 習熟度別授業による生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。	B						
			・進研模試における数値目標のクリア	模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。	B						
			・将来を見据えた進路目標の設定	進路指導部と連携し適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。各学期に進路面談を行い適切な進路選択と進路目標の早期実現を図る。	B						
学部	3年		・人権意識の高揚	学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。	B	B	B				

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策			次年度のおもな課題	
学 年	三 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席率 授業出席率99.0% 課外出席率96.5%</li> <li>家庭学習時間 1日平均160分以上</li> <li>進路目標 国公立大学 90人 四年制大学進学率 70%</li> <li>センター受験者 80%</li> <li>二次試験受験割合 受験者中65%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路目標達成に向けた教育活動の実践および自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成を目指す。</li> </ul>	進路指導部との連携を強め、進路意識の高揚を図る。また適切な進路情報の提供や個別面談を重視し、生徒一人一人の第一希望進路達成のため全力を尽くす。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力層が変化してきているという現状とともに、新テストをはじめ今後ますます多様化していくであろう入試環境に対し、教科指導等教員側が対応していく。</li> <li>担任に限らず教科や部活動などあらゆる材料で生徒面談の時間を確保していくことで、逃がさない指導を継続していくことが必要。</li> <li>「探究学習」の導入を踏まえ、今まで以上に学校教育全般を通して、自分の考えを整理しアウトプットする場面を作り、自己表現できる生徒を増やしていかなければならない。</li> <li>生活指導等については、1年次の初期指導に重点をおき、3年間の学校生活全体を通して指導していく。</li> </ul>	
				習熟度別クラス編成と習熟度別授業の実施、放課後学習（含む遅刻・欠席指導）の充実等により、学力の向上を図る。	A	B		
				課題提出の徹底。家庭学習時間の確保に努め、自ら学習する意欲を高める。	B	B		
				進路説明会や学年通信を利用し、進路情報を適切に保護者に提供し、学校・生徒・保護者が一体となった進路指導の実践に取り組む。	A	B		
				校外模試の結果を迅速・適切に分析し、生徒の実態把握と目標達成のための具体策を講じる。	B	B		
				課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。	A	B		
	学校生活全般を通して、「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての自覚を促す。	B	B					
	部 英 語 コ ー ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>英検 2 級→卒業までに 7 割合格 (13 名以上)</li> <li>GTEC (3 年次) GRADE 5 7 割以上</li> <li>国公立合格者 5 割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 技能をバランスよく身につけた英語力の伸長</li> <li>自国文化を再認識し異文化を理解する態度の育成</li> <li>国際社会においてたくましく生き、活躍できる人材の育成</li> </ul>	必修科目だけでなく専門科目授業においては更に、実践的な活動を多く取り入れた授業展開を心がけ、英語運用能力の伸長を図る。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>英語コース生が最上級生となり、授業外での活動が以前よりも困難になったことに加え、受験指導をコース全員での専門科目授業で行わないと時間確保ができないという状況で、計画を綿密に立てていなければコースの特色ある活動を行うことは難しく、結果として校外研修を行ったり、一般生徒に知ってもらえるような機会をすることができなかった。今後はコースで行ってきた実践的な要素を生徒全体の英語指導に活かしていくよう努めていく。</li> </ul>
				英検や GTEC、TOEIC などの資格試験受験を奨励し、合格者数増加を英語運用力向上の原動力とする。	B	B		
				大学での研修、校内行事等、英語コースとしての特色ある教育活動を展開する。	B	B		
英語コースの活動が発表できる場を設ける。また、コースの活動について一般生徒にも広く知ってもらう。				C	B			
			英語での授業実践を学び、指導力を向上するため、教員が積極的に他教員の授業を参観し、自己研鑽に努める。	B	B			